

「主と」新聖歌431番

1. 今までの私の人生 一つの出会いで生まれかわり
黒く重いとびらは開かれ
一つの光が射し込んできた

* イエス・キリストの愛を今 おさえきれずに ウウウ
私は生きています とこしえまでも生きる 主と

2. 地平線のはるかかなたに 幸せは何かと
叫(さけ)んでみても
人々のいつわり 雲となり 昨日(きのう)まで真実
知らないままに 【*くりかえし】 (次)

「主と」新聖歌431番

3. 私は登ります カルバリ 祈る心に つきさす思い
血に染(そ)まった主イエスの十字架
私も背負って 地(ち)の果(は)てまでも

* イエス・キリストの愛を今 おさえきれずに ウウウ
私は生きています とこしえまでも生きる 主と

「ぼくのたからもの」

イエスさまがくれた このくちびるで

イエスさまを賛美しよう

今日もそそがれる かぎりない愛

心から 感謝ささげよう

ぼくのたからものは イエスさまを知ったこと

イエスさまといっしょに生きること

わたしのたからものは イエスさまを知ったこと

イエスさまといっしょに生きること

(1997年夏、松原湖・小学生キャンプ)

新聖歌113番 「君(きみ)もそこにいたのか」

- 1 君(きみ)もそこにいたのか 主が十字架につくとき
アア～ 何だか心が震(ふる)える 震える 震える
君もそこにいたのか
- 2 君(きみ)も聞いていたのか 釘(くぎ)を打ち込む音を
アア～ 何だか心が震(ふる)える 震える 震える
君も聞いていたのか
- 3 君(きみ)も眺(なが)めていたのか
血潮(ちしお)が流れるのを
アア～ 何だか心が震(ふる)える 震える 震える
君も眺(なが)めていたのか (次)

新聖歌113番 「君(きみ)もそこにいたのか」

4 君(きみ)も気がついたのか とつぜん日がかげのを
アア～ 何だか心が震(ふる)える 震える 震える
君も気がついたのか

5 君(きみ)も墓に行ったのか 主をば葬(ほうむ)るために
アア～ 何だか心が震(ふる)える 震える 震える
君も墓に行ったのか

アーメン

使徒信条(しとしんじょう)

われは天地の造り主、全能の父なる神を信ず。
われはそのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。
主は聖霊によりて宿(やど)り、処女(おとめ)マリヤより生まれ、
ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、
十字架につけられ、死にて葬られ、陰府(よみ)にくだり、
三日目に死人のうちよりよみがえり、
天に昇り、全能の父なる神の右に座(ざ)したまえり。
かしこより来たりて生ける者と死にたる者とをさばきたまわん。
われは聖霊を信ず。
聖なる公同の教会、聖徒の交わり、
罪の赦し、身体(からだ)のよみがえり、
永遠(とこしえ)のいのちを信ず。

アーメン

新聖歌46番 「わが主よ 今ここにて」

- 1 わが主よ 今ここにて 親しく見^(まみ)えまつり
限りなき幸いを 受くるこそ うれしけれ
- 2 恵みの足^(た)れる時よ いのちの充^(み)てるおりよ
今しばし 留^(とど)まれや 主と共に われ過ごさん
- 3 ここには贖^(あがな)いあり ここには慰めあり
わが汚れ きよめられ み力は満ちあふる
- 4 面影^(おもかげ)うつししのぶ 今日だに かくもあるを
みくににて祝う日の その幸^(さち)や いかにあらん

アーメン

新聖歌111番 「生くる甲斐(かい)もなしと」

1 生くる甲斐(かい)もなしと独り 定めたりし者を
死をも賭(と)して救いませる 深きイエスの愛よ
* 十字架 十字架 そこに君は つきて死にたまえり
十字架 十字架 そこにわれの罪も 共に死せり

2 罪をそこにつけし今は いかで罪に問われん
神にありて 常にきよく 生くる身にしあれば

* (くりかえし)

3 君の御手に支えられて 道を歩むわれに
御名をほむる たたえ歌の 絶ゆる時はあらし

* (くりかえし)

アーメン

主の祈り

天にまします われらの父よ。

ねがわくは 御名をあげさせたまえ。

御国(みくに)を来たらせたまえ。

御心(みこころ)の天になるごとく、地にもなさせたまえ。

われらの日用(にちよう)の糧(かて)を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者を、われらがゆるすごとく、

われらの罪をもゆるしたまえ。

われらをこころみにあわせず、悪より救いだしたまえ。

国(くに)と力(ちから)と栄え(さかえ)とは、

限りなく 汝(なんじ)のものなればなり。

アーメン

新聖歌60番 「天地(あめつち)こぞりて」

あめつち こぞりて

かしこみたたえよ

みめぐみ あふるる

父 御子(みこ) 御霊(みたま)を

アーメン